

オスキー研修 ～目指せ！看護実践力アップ～

10月16日(水)～18日(金)、21日(月)～22日(火)の5日間で、事例をもとにした「移動・移乗・移送」「酸素療法」「口鼻腔吸引」のオスキー研修を実施しました。研修者からは、「自分の看護技術の改善点が明確になった」「できている点は今後も継続していきたい」「患者の苦痛を最小限にできるよう、看護手順を再確認したい」といった感想が聞かれていました。今回の研修で学んだことを、部署での看護実践に活かしていくことを期待しています。



【移動・移乗・移送】

- *CT検査が終了した患者に、フルネーム確認、体調の変化などを確認し、病室に戻る場面から演習を開始しました。
- *酸素チューブへの配慮や肘が車椅子の内側にあるかなど安全に注意し、声かけを行いながら移送していました。



【酸素療法・口鼻腔吸引】

- *患者がベッドに臥床すると咳嗽がみられ、痰の吸引を希望します。
- *研修者は、吸引の必要性を判断し、患者の苦痛を最小限にできるよう、準備から実施まで素早く、効果的な吸引ができていました。終了後は、患者が安楽に過ごせるように、労いの言葉と体位の調整や環境整備を行っていました。



【振り返り】

- *演習終了後に、研修者・指導者・模擬患者の3人で、意識して実施したことやできていた点、改善点を振り返り、今後の看護実践に活かせる振り返りを行いました。
- *模擬患者から「安心できた」とフィードバックを受け、研修者は笑顔になっていました。

